

神戸学院大学 中期行動計画 実行計画(第4層) 2017年度達成度評価表 分野: 学生支援

		評価	理由
中期計画	1 健康的で充実した学生生活の実現		
実行計画	(1) 学生への生活支援策(健康管理・下宿・アルバイトなど)を強化する。	A	学生への生活支援策のうち、下宿やアルバイトに関するものについては強化を図り、日常業務として継続的に実施できているが、健康管理に関するものについては、予算要求が見送りとなったまま2015年度で計画自体が終了しており、強化に至らなかった。第2次中期行動計画(2018-2022)では、予算配当の有無に限らず、健康管理の強化が図れるよう継続した取り組みが望まれる。
	(2) 学内奨学金制度などの見直しを行う。	—	今年度の計画は無い。
	(3) 各種相談室の充実とその連携協力体制を強化する。また、医務室の体制を整えていく。	B	計画当初より、計画に基づいた取り組みを継続的に実施できている。また、ミーティングや研修等、情報共有やその体制の強化ための取り組みを積極的に行っており、評価できる。
	(4) 「なんでも案内」「ピア・サポート」などによる学生生活支援体制を構築する。	A	毎年、前年度の課題・問題点を踏まえた改善策を確実に講じるとともに、学生の主体的な動きを促す支援に徹しており、評価できる。利用した新入生からの満足度がほぼ100%であることから、体制は構築され、強化されたものと判断できる。
	(5) 新入生へのフォローアップ(サポート)体制を確立する。	B	履修登録のサポートだけでなく、薬物対策、SNS対策等のセミナーを行う等、社会情勢を踏まえたサポートができており、体制は確立できている。初年次教育用テキスト「大学生生活入門」の内容も、新入生を幅広くサポートするものであり、評価できる。
中期計画	2 安全で快適なキャンパス環境の充実		
実行計画	(1) ハラスメント防止策の徹底を図る。	C	毎年、新入生オリエンテーションやリーダーズトレーニングにおいて、本学のハラスメント防止策の周知を継続していることは評価できる。また、専任教員だけでなく非常勤講師もハラスメント研修の対象としたことも評価できる。一方で、ハラスメント事案に対応できる非常勤専門相談員の絶対数が不足している等、課題も残る。
	(2) 禁煙指導を強化する。	C	毎年、継続した取り組みを行い、一定の成果が上がっている。一方で、2015年度より学生数が増加したキャンパスにおいて、喫煙マナーが年々悪化しているという計画当初には想定していなかった問題が生じており、第2次中期行動計画(2018-2022)において、改善策を講じる必要がある。
	(3) 防犯対策を強化する。	B	防犯対策については、ハード面、ソフト面ともにさまざまな対策を継続的に行っており、評価できる。防犯意識をさらに高めるためには、入学時だけでなく、2年次以降も継続して啓発を行う必要がある。
	(4) 薬物乱用防止のための啓発活動を強化する。	B	毎年、新入生に対して講演会等を継続的に実施しており評価できる。今後も継続的に実施することを期待し、新入生だけでなく2年次以上の学生に対しても実施することが望まれる。
	(5) 学生のグループワークを促進するためのゾーンを設置する。	—	今年度の計画は無い。
	(6) 学内食堂、売店などの充実を図る。	—	今年度の計画は無い。
	(7) 学内トイレ、洗面所などの改善を進める。	B	毎年計画的に学内トイレ、洗面所の改修が行われており、評価できる。今後も、学生がより快適に過ごせるよう計画的な改修に期待する。
中期計画	3 課外活動の奨励と支援		
実行計画	(1) 課外活動参加者の増加策を検討する。	—	今年度の計画は無い。
	(2) 強化クラブ、準強化クラブ制度の再構築を行う。	—	今年度の計画は無い。
	(3) 課外活動活性化推進室(仮称)の設置を検討する。	—	今年度の計画は無い。
	(4) 課外活動および各種学生団体、グループの発表・展示・活動の促進と支援を図る。	B	毎年、文化祭、ダイヤモンドフェスティバル、大学祭において学生が相互協力するよう適切に支援できており、評価できる。また、2015年度の附属高校の移転をきっかけに課外活動の合同練習等を行い、附属中学校・高等学校との連携も強化された。
	(5) 課外活動施設・設備の充実を図る。	—	今年度の計画は無い。
中期計画	4 キャリア支援の強化		
実行計画	(1) 企業訪問、学内企業説明会などによる企業との接点を強化する。	B	キャリアセンターを中心に毎年地道な取り組みが行われ、一定の成果を上げており評価できる。また、各学部においても企業との接点強化のため、新入生向けの講演会として地元企業の経営者を招へいする等、さまざまな工夫がなされており、評価できる。
	(2) インターンシップ制度の充実を図る。	B	継続した取り組みによりインターンシップ制度は一定の成果が上がっているが、有力企業のインターンシップや低学年向けのインターンシップについては、実施困難であるとの結論となっている。インターンシップ制度充実のためにコアとなる部署からの積極的な取り組みが必要である。
	(3) 学生の就職活動状況の的確な把握のために、学部、研究科との連携を図る。	—	今年度の計画は無い。
	(4) 既卒者を含む就職未内定者に対するサポート体制を強化する。	C	既卒者を含む就職未内定者に対するサポートについては、キャリアセンターが中心となり継続的に取り組んでおり、5年間で体制強化が進んだ。一方で、外部機関を活用しての各種就職支援の継続的な検討に課題が残る。

評価 S: 目標よりはるかに上回る、A: 目標をやや上回る、B: おおむね目標どおり、C: 目標をやや下回る、D: 目標をかなり下回る